

国会軽視・民意無視の政策決定

岸田首相は、昨年8月のGX会議で、原子力政策について①既設炉の再稼働の推進、②40年超え運転の容認、③次世代革新炉の開発などの方針を提起、12月に「行動指針」を決めました。わずか3ヶ月の形ばかりの審議で、2011年のフクシマ原発事故以来掲げてきた「原発依存からの脱却」方針を大きく転換させました。結論ありきの拙速な決定であり、国会軽視・民意無視の政策決定です。国の政策の根本的な方針変更を内閣の一存で決めることは、民主政治の否定であり、暴挙です！

原発60年運転は極めて危険

原発の運転期間の40年規制を60年にすることは、原子炉等規制法の原則を大転換させるものです。原子炉1基には1万点を超える関連部品や設備があり、運転期間に応じて原子炉を一定期間停止し、定期点検の実施が義務付けられています。それでも配管の亀裂や冷却水の漏洩など事故が絶えなかったのです。通産省は、運転期間延長のために定期点検などで休止している期間を運転延長期間に算入し、実質60年以上の運転も可能にしようとしています。運転期間延長の目的は事業者の利潤拡大です。これがいかに危険であるかが、国民に十分周知されていません。

実現根拠のない次世代革新炉

岸田首相が推奨する次世代革新炉は、革新軽水炉・小型軽水炉・高速炉など5つの炉型を提示していますが、既にヨーロッパや中国で導入されているコアキャッチャー（炉心溶融事故時にデブリを保持する装置）を備えるもの（革新軽水炉）や実現にほど遠い原子炉（高速炉・高温ガス炉・核融合）です。CO2排出削減の2030年目標や2050年目標には、技術的・費用的・時間的に実現不可能なものです。実現根拠のない目標を欺瞞的に提示しただけとしか思えません。

【裏面につづく】

国民の声を無視する
原子力政策の決定は
許せない！



フクシマを忘れさせようと している岸田政権

11年以上も故郷を奪われ、理不尽な生活を強いられている方々に対し、東電や国は、謝罪し、つぐない、誠意ある対応をする責任があります。しかし、岸田政権はそれどころか、汚染水の海洋投棄、汚染土壌の再利用など原発事故の「負の課題」を次々ともみ消そうとしています。

汚染水を海に流すと、放射線濃度は低くなりますが、放射性物質の絶対量は変わらないので環境に強い影響を与え続けます。また、世界中の海に広がり、各地に被害を及ぼす恐れがあります。放射性物質は定められた施設で管理し続けなければなりません。汚染土壌を移動させ、拡散させることは、より管理を困難にし、風評被害だけでなく「実害」を引き起こす恐れが拡大します。

エネルギーシフトの実現を

ドイツは、メルケル前首相の下でエネルギー政策を大転換し、2022年までに原発ゼロにすると決めました。今はウクライナ戦争への対応で稼働している原発も間もなく停止する予定です。ドイツが示したように、原発に頼らない社会の実現は、政治判断・政策、財政措置で可能なのです。

日本は、かつて風力や太陽光発電で世界をリードした歴史があります。その工業技術をより高めて、豊富な太陽光や風力を活用し、分散型で地産地消も可能な自然エネルギー源の活用に、これから積極的に取り組むべきです。原発依存から脱却し、再生可能エネルギー活用へ転換する「エネルギーシフト」の実現を政治決断することが必要です。【組合員 Y】

■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員の長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！



【2023年1月11日】

**全造船関東地協労働組合
よこはまシティユニオン**

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505
TEL&FAX 045-575-1948
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp

